

本と音楽の出逢いな

第一線で活躍する
人気作家と音楽家が繰り広げる
新感覚のクロストーク&コンサート

構成・ナビゲーター
浦久俊彦

Vol 1

7月5日 水 『マチネの終わりに』
平野啓一郎 (小説家)
大萩康司 (ギター)



©SHIMON SEKIYA



7月5日 水
公演

Vol 2

11月1日 水 『羊と鋼の森』
宮下奈都 (作家)
金子三勇士 (ピアノ)
大橋宏文 (ピアノ調律師)



©Seiichi Saito



11月1日 水
公演



大田区民ホール アプリコ大ホール

JR・東急線「蒲田駅」東口から徒歩3分 京急線「京急蒲田駅」西口から徒歩7分

13:00 開演 (12:15 開場)

全席指定 各日 3,000円 (税込) セット券 5,400円 (税込)

※未就学児の入場はご遠慮ください。 ※車椅子席 (4席) をご希望のお客様はお電話か窓口でお申込ください。

チケット発売日: 4月12日(水) 10:00~



● オンラインチケット 発売日から公演前日19:00まで座席をご予約いただけます (24時間対応)

<https://www.ota-bunka.or.jp/>

● 大田区文化振興協会チケットセンター 発売初日4月12日10:00~14:00のみご利用いただけます
TEL 03-3750-1555

● 窓口・電話予約 発売初日4月12日14:00以降は、下記2館で電話予約・窓口販売いたします (10:00~19:00)
大田区民ホール・アプリコ TEL 03-5744-1600 大田文化の森 TEL 03-3772-0700

新型コロナウイルス感染防止策の詳細は、大田区文化振興協会ホームページをご確認ください。

7月5日(水)

『マチネの終わりに』

芥川賞作家・平野啓一郎が綴る、美しくも切ない大人の恋愛小説『マチネの終わりに』。主人公・葺野のモデルの一人でもある大萩康司が奏でるギターの音色に酔いしれつつ、小説家の想いから物語の情緒を辿る至福のひと時をお届けします。

プログラム

- G. ガーシュウィン〜 武満徹編: サマータイム
- A. バリオス: 大聖堂
1. 前奏曲〜郷愁 2. 宗教的なアンダンテ 3. 荘厳なアレグロ
- F. タレガ: アルハンブラの想い出
- H. ヴィラ=ロボス: ガヴォット・ショーロ
- 菅野祐悟: 幸福の硬貨 (映画「マチネの終わりに」より) 他



© 藤本幹也

平野啓一郎 (小説家)

1975年愛知県蒲郡市生。京都大学法学部卒。1999年在中に文芸誌「新潮」に投稿した『日蝕』により第120回芥川賞を受賞。40万部のベストセラーとなる。以後、一作毎に変化する多彩なスタイルで、数々の作品を発表し、各国で翻訳紹介されている。美術、音楽にも造詣が深く、日本経済新聞の「アートレビュー」欄を担当(2009年〜2016年)、幅広いジャンルで批評を執筆。著書に、小説『葬送』、『決壊』、『空白を満たしなさい』、『透明な迷宮』、『マチネの終わりに』、『ある男』等。2019年に映画化された『マチネの終わりに』は、現在、累計60万部超のロングセラーとなっている。最新作は、「自由死」が合法化された近未来の日本を舞台にした長編小説『本心』。



© SHIMON SEKIYA

大萩康司 (ギター)

高校卒業後にフランスに渡り、パリのエコール・ノルマル音楽院、パリ国立高等音楽院で学ぶ。ハバナ国際ギター・コンクール第2位、合わせて審査員特別賞「レオ・ブローウェル賞」を受賞。その後イタリアのキジアーナ音楽院で学び、4年連続最優秀ティプロマを取得。これまでにNHK「トップランナー」「ららら♪クラシック」やMBS「情熱大陸」、テレビ朝日「題名のない音楽会」等メディアへの出演多数。日本における代表的な音楽祭のほか、モスクワ、コロンビア、台湾等海外の国際フェスティバルにも定期的に招かれている。第6回ホテルオークラ音楽賞、第18回出光音楽賞受賞。洗足学園音楽大学、大阪音楽大学各客員教授。

11月1日(水)

『羊と鋼の森』

ピアノ調律に魅せられた青年の心の成長と葛藤を描く2016年本屋大賞受賞の人気小説『羊と鋼の森』。ピアニスト金子三勇士の演奏と共に、作者・宮下奈都の音楽への特別な想いに触れながら、静謐で奥深いピアノ調律の世界に迫ります。

プログラム

- ショパン: ノクターン嬰ハ短調「レント・コン・グラン・エスプレッシオーネ」
- ショパン: ワルツ第6番変二長調 op.64-1「小犬のワルツ」
- ショパン: 即興曲第4番嬰ハ短調 op.66 (幻想即興曲)
- ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第14番嬰ハ短調 op.27-2「月光」
- リスト: 巡礼の年第1番「スイス」より「泉のほとり」
- バルトーク: 3つのチーク県の民謡 Sz.35 / BB 45b
- リスト: バガニーニによる大練習曲第3番嬰ト短調「ラ・カンパネラ」 他



© 堀田芳香

宮下奈都 (作家)

1967年福井県生まれ。上智大学文学部哲学科卒。2004年初めて書いた小説「静かな雨」で第98回文学界新人賞佳作に入選、デビュー。2007年初の単行本『スコレNo.4』が話題を呼び、ロングセラーに。2015年に刊行された『羊と鋼の森』が翌年、TBS系「王様のランチ」ブックアワード2015大賞受賞、「2016年本屋大賞」第1位、「キノベス!2016」第1位で、史上初の三冠を受賞、ベストセラーになる。登場人物の日常の風景や感情をみずみずしい文章で丁寧にすくいあげる作風で人気を得ている。著書に、『よるこびの歌』『太陽の Pasta、豆のスープ』『メロディ・フェア』『窓の向こうのガーシュウィン』『終わらない歌』など多数ある。近著は『ワンさぶ子の怠惰な冒険』。



© Seichi Saito

金子三勇士 (ピアニスト)

1989年、日本人の父とハンガリー人の母のもとに生まれる。6歳で単身ハンガリーに渡りバルトーク音楽小学校に入学。2001年、11歳飛び級でハンガリー国立リスト音楽院大学(特別才能育成コース)に入学し、2006年に全課程取得とともに帰国、東京音楽大学付属高等学校に編入。同大学、大学院を修了。2008年バルトーク国際ピアノコンクール優勝の他、数々のコンクールで優勝。第22回出光音楽賞他を受賞。NHK-FM「リサイタル・パッショ」にレギュラー出演。2021年は日本デビュー10周年を迎えた。それを記念して2022年3月にはドイツ・グラモフォンより新譜CD「フロイデ」をリリースした。スタインウェイ・アーティスト。オフィシャルHP <http://miyuji.jp/>



大橋宏文 (ピアノ調律師)

1966年生まれ 魚座のO型。中学、高校とサッカー部。高校2年の時、父親の薦めでピアノ調律師を志す。ヤマハピアノテクニカルアカデミー5期生。1994年1月〜7月 スタインウェイアンドサンズハンブルク工場研修。2009年6月スタインウェイアカデミー認定証取得。現在スタインウェイジャパン株式会社委託技術者として日々調律業務に当たる。好きな言葉は「慌てず急げ」。



© 新津保 建秀

浦久俊彦 (構成・ナビゲーター)

文筆家、文化芸術プロデューサー。一般財団法人欧州日本芸術財団代表理事、代官山未来音楽塾塾頭。2021年3月、サラマンカホール音楽監督として企画した『ぎふ未来音楽展2020』が、サントリー芸術財団第20回佐治敬三賞を受賞した。著書に『138億年の音楽史』(講談社)、『フランツ・リストはなぜ女たちを失神させたのか』

『悪魔と呼ばれたヴァイオリニスト』『ベートーヴェンと日本人』(以上、新潮社)、『オーケストラに未来はあるか(指揮者・山田和樹との共著)』(アルテスパブリッシング)など。最新刊は『リベラルアーツ〜「遊び」を極めて賢者になる』(集英社インターナショナル)。

公式ホームページ <http://www.urahisa.com>

大田区民ホール・アプニコ

東京都大田区蒲田5-37-3

TEL:03-5744-1600 FAX:03-5744-1599

JR京浜東北線、東急多摩川線・池上線「蒲田駅」東口から徒歩3分
京浜急行線「京急蒲田駅」西口から徒歩7分

駐車場: 区営アロマ地下駐車場 15分 / 100円

